

報道関係各位

三菱地所株式会社

## 皇居外苑濠元来の生きものの保全、復元に取り組む「濠プロジェクト」 ～皇居外苑濠の泥から東京都区部で絶滅した水草「ミゾハコベ」などの復元に成功～

三菱地所株式会社（以下、当社）は、大手町のオフィスビルを活用して皇居外苑濠の生物多様性の保全や復元に取り組む「濠プロジェクト」\*1を実施しています。この度、濠プロジェクトの活動において皇居外苑濠で採取した泥から、5種の水草を復元することができました。この中に東京都23区内では絶滅\*2した水草「ミゾハコベ」が含まれており、その他にも、現在の皇居外苑濠では生育が確認できておらず、東京都23区内では準絶滅危惧種\*2と判定されている水草「クロモ」など、レッドリストに記載されている希少な水草3種が含まれていました。



▲ミゾハコベ



▲濠プロジェクト活動の様子

### ■濠プロジェクトの活動において皇居外苑濠で採取した泥から復元された植物一覧

種名	東京都 レッドリスト 2010 (区部) *3	環境省 レッドリスト 2019*3	皇居外苑濠 2018 調査*4
ミゾハコベ	絶滅	—	生育未確認
クロモ	準絶	—	生育未確認
エビモ	Ⅱ類	—	生育を確認
ツツイトモ	—	Ⅱ類	生育を確認
ホザキノフサモ	—	—	生育を確認

当社では上記5種の水草に加え、本プロジェクトに先駆け皇居外苑濠の泥から水草の復元を行っていた千葉県立中央博物館より水草の提供を受け、皇居外苑濠由来の水草11種を「ホトリア広場」\*5や大手町ビル屋上のビオトープにおいて育成しています。この11種のうち半数以上の種は、現在皇居外苑濠において生育が確認されておらず、泥の中で種子等の状態で休眠していると考えられ、保全上重要な水草です。このビオトープでは、かつて大手町周辺部に広がっていた水辺生態系の復元を目指した保全管理を進めることにより、昨年度までに6種のトンボ類が飛来・定着、うち2種がレッドリストに記載されている希少種を含むなど、生物多様性保全の成果が得られています。当社では、現在の皇居外苑濠や大手町周辺の生きものを保全するだけでなく、かつてこの地に広がっていた生態系を復元させ、その活動を街づくりの一環として行っていくことで、さらに魅力的な街づくりに活かしてまいります。





▲ビオトープ (ホトリア広場)



▲ビオトープ(ホトリア広場)



▲ホザキノフサモ



▲クロモ



▲ツツイトモ



▲皇居外苑濠の泥を用いた発芽復元実験の様子



▲ベニイトトンボ

■大手町のオフィスビル内のビオトープ (ホトリア広場) に飛来確認されたトンボ類一覧<sup>※6</sup>  
(2017年～2019年度)

種名	東京都レッドリスト 2010 (区部) <sup>※3</sup>	環境省レッドリスト 2019 <sup>※3</sup>
モノサシトンボ	情報不足	
アオモンイトトンボ		
ベニイトトンボ	Ⅱ類	準絶
オオシオカラトンボ		
アジアイトトンボ		
クロイトトンボ		

## 【注釈】

### ※1 濠プロジェクトについて：

本プロジェクトは当社が環境省と協定を締結して実施している活動です。実際の活動では、公益財団法人日本自然保護協会、千葉県立中央博物館、国立環境研究所気候変動適応センター（西廣 淳室長）など、NGOや専門機関、専門家と連携して取り組んでおり、生きものの保全や復元には、当社グループの従業員や大丸有エリアのオフィスワーカーにも関わっていただいています。

今後、成長した水草や生きものは、将来的に当社が管理・所有するビルや敷地の人工池等にも導入し、皇居の自然の代替地、エコロジカルネットワークの機能を持たせてまいります。また、エリアのワーカーや来街者に広く周知する機会を持つことで普及啓発活動も行ってまいります。

### ※2 東京都レッドリスト 2010 に基づく

### ※3 環境省レッドリスト 2019 について：

環境省が、日本に生息する生物についてまとめたレッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）です。専門家で構成される検討会が、生物学的な観点から個々の種の絶滅の危険度を評価した結果をまとめています。レッドリストの情報は、環境保全など様々な場面で活用されています。

### 東京都レッドリスト 2010 について：

#### 東京都環境局『「東京都の保護上重要な野生生物種」（本土部）～東京都レッドリスト～2010年版』

東京都が独自に作成しているレッドリストであり、東京都を対象範囲としているため、日本全国を対象とする環境省のレッドリストとは絶滅危惧のランクが異なる生物もあります。より地域の実情に応じた自然環境の保全活動を後押しするものとして、東京都による自然環境行政や、都内における保全活動を実施する際に活用されています。

### レッドリストの категорияについて 東京都レッドリスト 2010 より：

絶滅	当該地域において、過去に生息していたことが確認されており、飼育・栽培下を含めず でに絶滅したと考えられるもの
絶滅危惧Ⅰ類 （Ⅰ類）	現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
絶滅危惧Ⅱ類 （Ⅱ類）	現在の状態をもたらした圧迫要因が生き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」 のランクに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧 （準絶）	現時点での絶滅危険度は小さいが、生育条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位 ランクに移行する要素を有するもの
情報不足	環境条件の変化によって、容易に絶滅危惧の категорияに移行し得る属性を有している が、生育状況をはじめとして、ランクを判定するに足る情報が得られていないもの

### ※4 皇居外苑濠 2018 調査について：

本プロジェクト内で実施した公益財団法人日本自然保護協会の皇居外苑濠現地調査  
(2018年5月15日、5月19日)

## ※5 「ホトリア広場」について：

「ホトリア広場」は、皇居外苑濠に隣接する大手町ホトリア（大手門タワー・ENEOS ビル、大手町パークビルからなる街区）の西側に位置する、約 3,000 m<sup>2</sup>もの環境共生型の緑地広場で、皇居外苑濠の豊かな自然と歴史的景観との調和を生み出しています。

皇居の二の丸雑木林を意識した在来種や地域種を主体に構成され、緩やかな傾斜と広場を横断する水景施設は、人、環境、生きものをつなぐ「交流の森」を創出し、訪れた人に、包み込まれるような感覚を与えてくれます。さらに、事前に生態調査を実施し、皇居周辺に生息する生き物を誘致すべく、生きものの住みかになるような工夫が凝らされています。こうした取り組みが評価され、一般社団法人いきもの共生事業推進協議会(ABINC)の「いきもの共生事業所認証」(ABINC 認証)<都市・SC 版>を受けています。

また、「ホトリア広場」では、生物多様性に配慮した広場として皇居を中心とする生態系ネットワーク（エコロジカルネットワーク）をつなげるための取り組みを継続的に実施しています。植栽管理や外構清掃業務の一環で、発見した生き物をチェックしている他、3×3 Lab Future を拠点に市民参加型の生きものモニタリングイベントを開催するなど、生物多様性に配慮した都市の成長を目指します。

## ※6 当社が委託する生物調査および日本自然保護協会調査に基づく

### 【本プロジェクトが貢献する主な SDGs】



三菱地所グループは、長期経営計画 2030 において持続可能な社会の実現に向けた「三菱地所グループの SDGs2030」における 4 つの重要テーマを定め、そのうちの一つを「Environment」として「気候変動や環境課題に積極的に取り組む持続可能なまちづくり」を推進しています。

本プロジェクトは皇居外苑濠の貴重な生態系を保全、復元する活動であり、自然界との共生関係の構築に資する取り組みとして継続してまいります。

### (参考) 本件に関連する当社グループの取り組みについて

「三菱地所グループ長期経営計画」

[https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124\\_managementplan.pdf](https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200124_managementplan.pdf)

「三菱地所グループの SDGs (Sustainable Development Goals) 2030」

<https://www.mec.co.jp/j/sustainability/management/value/>

[https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200205\\_sustainability%20vision%202050.pdf](https://www.mec.co.jp/j/news/archives/mec200205_sustainability%20vision%202050.pdf)